



浄土宗 不退院
虚空蔵堂

〒020-0861 岩手県盛岡市仙北 2-22-48
電話 019-636-3739

お助け観音

この観音様は、上鹿妻在住の滝村氏が昔鹿妻堰清掃の折、水底より発見し信仰していた六二センチの石彫の聖観世音菩薩で、不退院責任役員であり元盛岡市議会議員の戸塚孝氏の計らいで境内に祀ることになったのが、昭和六十一年（一九八六）のことである。いかなるわけか水底にあって、今再びこの世に現れ、苦しみ多い現世の人々を救わんとする、そのみ心に叶うようにと、「お助け観音」と名づけたのである。全てのこだわりを捨て、ただひたすら、み仏の救いの手にすがれば、必ずや心の安らぎを得るであろう、という思いからである。



第二十代総理大臣
高橋是清 謹書

十二支一代守り本尊

(生まれ年と守り本尊)

子	年	千手観音菩薩
丑	年	虚空蔵菩薩
寅	年	虚空蔵菩薩
卯	年	文殊菩薩
辰	年	普賢菩薩
巳	年	普賢菩薩
午	年	勢至観音
未	年	大日如来
申	年	大日如来
酉	年	不動明王
戌	年	阿弥陀如来
亥	年	阿弥陀如来

忌日年忌の主尊 十三仏

初	七日	不動明王
二	七日	釈迦如来
三	七日	文殊菩薩
四	七日	普賢菩薩
五	七日	地藏菩薩 (三十五日)
六	七日	弥勒菩薩
七	七日	薬師如来 (四十九日)
七	日	観音菩薩
百	ケ日	勢至菩薩
一	周忌	阿弥陀如来
三	回忌	阿弥陀如来
七	回忌	阿閼如来
十三	回忌	大日如来
三十三	回忌	虚空蔵菩薩



不退院縁起

元禄七年(一六九四)盛岡浄土宗円光寺の中興良観喜微和尚が、同年の凶作により出たあまたの餓死者が埋葬された、北上川浮島(現在の明治橋上流一〇〇米西岸)に草庵を造り、埋葬された餓死者の霊を供養するため、千日の別時念仏を修行し、大いに町民を勸化したのがその初めといわれる。正徳六年(一七一六)前記の草庵に旧十三日町屋山屋元祖の寄進による阿弥陀如来を本尊として安置し「千日堂不退院」と称した。

享保九年(一七二四)北上川の大洪水で、本尊阿弥陀如来、蓋尊大師、円光大師(法然上人)の座像を残すのみで、一切を流失、藩主南部家より現在地を下賜され、堂宇を再建し、これによりこの地を「千日河原」と称したといわれる。

その後、何回かの修復工事が行われたことは、残された棟板によって知ることができ、明治二十九年(一八九六)老朽甚だしく、不退院の本堂は取り壊しとなり、もともと檀家もなく再建されないまま、虚空蔵堂内に本尊等が安置され今日に至っている。

虚空蔵堂縁起

不退院が現在地に再建されて間もないころ、近くに住む正直者の農夫が、千日河原に朝草刈りに出たとき、草むらの中に光明を發する仏像を見つけた。家に持ち帰った農夫は箱の中に安置して、家族ともども朝夕拜んでいたところ、家内に病人なく、生活は豊かになり、幸せな暮らしになっていったという。

これを伝え聞いて近郊近からお参りにくるものは増える一方で、困った農夫が近くの不退院にお願いして、小さなお堂を建てて信者の便を図ることになったという。それが「虚空蔵堂」の始まりである。

その後文化三年(一八〇六)講中を組織して、木造萱葺き五坪(約一六・五平方米)の本堂を建立、盛岡城下の老舗の旦那様方も大いに信仰し興隆に尽くしたという。また、このお堂の柱に白萩の木を用いたということが珍しく、「白萩の虚空蔵」と噂が全国に広まり、遠く関西からも参詣に来るものがあつたという。そうした信者の参籠の便宜を図るべく嘉永元年(一八四八)には籠堂を建てている。

昭和十年(一九三五)講中「丑寅会」を組織し浄財を募り、現在の虚空蔵堂建立に当たり、老朽化した籠堂を取り壊し、その跡地に新本堂が建てられた。

虚空蔵菩薩の縁日は十三日で、古来福を授け知恵を授ける仏さまとして知られ、また、丑歳生まれ、寅歳生まれの一代守り本尊としても、全国に虚空蔵菩薩の信者は多い。

不退院の虚空蔵菩薩は秘仏で、丑年寅年交互に御開帳大祭を七月十三日中心に開催している。また、奥州十三仏の第十三番札所ともなっている。

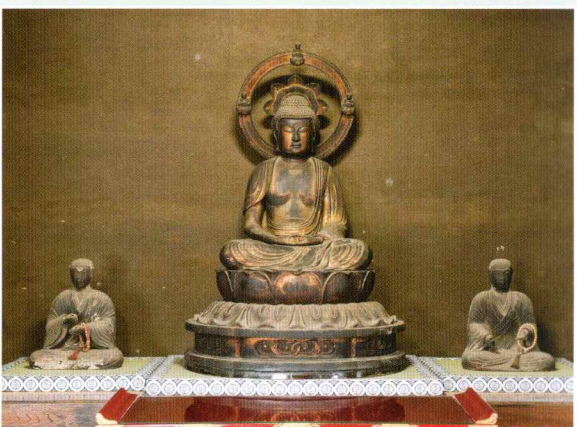
聖観世音菩薩(盛岡三十三観音第十三番札所)

盛岡三十三観音第十三番札所、不退院の観音様は、大正十五年(一九二六)盛岡三十三観音札所再興を發願した信者の寄進による、厨子に安置された金銅製十八センチの二代目の観音様「聖観世音菩薩」である。

不退院は常駐の住職の居らなかつた時代が永く、荒れるに任せていたためであろうか、初代の観音様は一尺(三十三糎)ぐらいの木製座像であつたらしいが、地方を行脚の出家修行者が寝泊りしたあぐり持ち去つたものと思われる。

御詠歌

ひとたびも まいる心は 千日に
むかう誓いと 思いこそすれ



不退院本尊阿弥陀如来と両大師



聖観世音菩薩像